



# 消防学校 ニュース



令和2年9月号

## 初任科 第2回野外訓練

第2回野外訓練は、消防学校消防職員初任教育の一環として、近い将来の発生が危惧されている『南海トラフ巨大地震』の発生を想定して実施するものです。学校訓練施設における各種訓練及び校外での夜間強歩訓練を行い、消防職員として必要である強靱な体力・精神力を養成するとともに、消防の任務である大規模災害における要救助者の救出を目的として行いました。

訓練当日の昼間は消防学校において実践的応急はしご訓練、搬送訓練、応急手当訓練を実施、その後、夜間から朝方にかけて、災害現場への歩行移動を想定し約20kgの装備を背負い、富士マリンプールから消防学校までの約30キロメートルを踏破し、消防学校到着後は、仮想大規模災害現場にてブラインド型想定訓練を実施しました。

(担当教官コメント)

今回の第2回野外訓練では、大規模災害現場での要救助者救出を最大の任務として計画しました。

災害現場に向かう夜間強歩訓練では、数人の離脱者（軽症）が発生しましたが、災害現場到着後のブラインド型想定訓練では、消防学校敷地内に居るすべての要救助者を救出できました。学生たちは、長時間に亘る訓練で疲労困憊になりながらも最善を尽くし活動しました。この訓練を通じて自分たちに何が足りないのかを考え、更なる成長に期待します。

教務課主査 中村 一二三（静岡市消防局から派遣）

### 初任科第91期 第2回野外訓練の概要

- 実施日時  
令和2年8月6日（木）9：00  
～ 8月7日（金）7：30
- 訓練内容・場所  
第1部 消防学校訓練施設で通常業務  
各種訓練  
第2部 夜間強歩訓練  
（富士マリンプール～消防学校：約30km）  
第3部 大規模災害現場でブラインド型訓練
- 日程表  
6日（木）  
6：15 起床  
6：30 日朝点呼・早朝体育（資機材準備）  
7：30 朝食  
8：20 日直寮直交代  
9：00 校長訓示・各種訓練開始  
15：15 各種訓練終了 夕食・入浴  
17：30 消防学校出発（バス）  
18：30 富士マリンプール到着  
19：00 夜間強歩訓練開始  
7日（金）  
5：25 帰校  
6：10 ブラインド型訓練開始  
7：30 訓練修了

### 活動方針 最善を尽くせ！



校長訓示

## 第1部 活動イメージ「通常訓練」



実践的応急はしご訓練



搬送訓練



応急手当訓練



しっかり食べて準備



## 第2部 夜間強歩訓練



出発前 整列



ひたすら歩く



休憩時間は仮眠です



ただひたすら歩く



消防学校到着

### 第3部 活動イメージ「ブラインド型訓練」



担当の中村教官



大規模災害訓練



宮田教務課長訓示



## 第2回初任科体力測定

第1回体力測定を実施したのが、初任科生たちの入校後まもない4月。

積み重ねた訓練の成果、自己鍛錬の結果をみる第2回体力測定を8月19日と20日の2日間で実施しました。

初任科生たちにとって、真夏という悪い条件ですが消防隊が必要とされる時は、基本的に悪条件が付き物です。飛びぬけた記録は出ませんでした。が、課外時間や休日に体力錬成に努めた者はしっかりとその成果が表れた結果になったと思います。

(担当教官コメント)

猛暑のなか、学生は連日厳しい訓練を実施しています。日中過酷な訓練を終えた日も、第2回体力測定に向けて課外時間に体力錬成を行っている学生が多く見られました。4月の入校時と比べると、明らかに体格が良くなったのが分かります。第2回体力測定の結果も、全学生が記録更新をしています。9割の種目で記録更新をしている学生もいました。

消防吏員は心・技・体が備わり人の模範とならなければなりません。「体」の部分において、初任科を修了した後も鍛え続ける自分に厳しい職員になって欲しいと思います。

教務課主査 田島 貴俊 (富士市消防本部から派遣)



懸垂



100m走



反復横跳び



1500m走

# 塩崎ぜっ校長

ワンチョット(チョイネタ)コーナー

今月のつぶやき



## ○ 米軍海兵隊のキャンプ富士へ行く

8月の初任科学生のお盆休みの期間中、教官8名と一緒にアメリカ海兵隊のキャンプ富士を訪問した。基地内にある実火災訓練施設『ライブファイア』を利用し、基地消防隊と合同訓練のためである。自衛隊の駐屯地の隣で、何度も前を通ったことはあったのだが、中に入るのは、今回が初めてである。アメリカ軍の基地に入るということで、ちょっと緊張した。

基地内の消防署では、署長さんがとても丁寧に対応してくれた。

基地で消防隊として活動する隊員は全員が日本人。

皆、アメリカの法令に基づく教育・訓練を修了しており、

熱意も技術（日本と異なることもあると思うが）も凄い。

訓練施設は、燃焼室を地面から1mほど上げることで、安全性と見やすさに配慮されていた。

訓練参加教官からは「ロールオーバー（注1）の現象が、

体験したことないくらいははっきりと確認できた。勉強になった」との言葉があった。

訓練終了後は、基地内の訓練施設を見学させていただいた。施設や訓練は、いろいろと工夫されており、わが消防学校の教育訓練にも還元できることがあるのではないかと感じた。

基地内は、実災害は少ないが、軍隊の基地の特殊性から、

武器や火薬による重大な事故など、特殊な事案もあると聞いた。

訓練中、グアムから日本、韓国にわたるアメリカ軍基地内全消防署を統括する消防長（アメリカ人）が激励に来られた。

「お互いの交流は素晴らしい。是非、続けて行きたい」とのお言葉をいただいた。

ありがたく、うれしい。

署長のお話では、海兵隊の消防隊は、

県内の消防本部や東北地方、関東地方の消防との交流もあるとのこと。

今回、わが消防学校は初の訪問であったが、とても有意義で刺激になったことから、

継続的に交流を図り、相互の消防力の強化になれば、と思う。

14時過ぎ、訓練と視察が終了。参加者全員で基地内の食堂で遅い昼食をとった。

アメリカのハンバーガー、“肉”って感じのとても大きな食べ物だった。

ドクターペッパーを飲みながら、「アメリカ」を感じたひと時であった。

帰りに、お土産でレイズのカロリーカットとBBQ味のポテチ各1ドル40セントを買った。

キャンプ富士消防隊の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

おまけ

アメリカ式の消防車は、とてもでかい。排気量は12700cc。日本の大型免許で運転できるらしい。

キャンプ富士消防隊のエンブレムは、富士山、桜、赤鳥居が描かれており、とてもかっこいい。

注1：フラッシュオーバーの予兆の一つで炎が天井を這う現象



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: [fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp)

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

